



野呂山再整備基本構想の策定について

野呂山再整備基本構想については、令和5年度から、野呂山関係機関・国（環境省・林野庁）・広島県（自然環境課）・呉市・地元関係者で構成する「野呂山検討協議会」を設立し、策定に向けて協議を行ってきました。

また、民間活用による整備を目指し、令和6年度から令和7年度にかけて、民間事業者等に対するニーズ調査、ヒアリング及び現地を案内するモニターツアーを実施しました。

これらの協議内容・調査結果を踏まえ、地元住民・観光客でにぎわう野呂山を目指して、「野呂山再整備基本構想」を策定しました。

- 1 「野呂山再整備基本構想」
別紙のとおり
- 2 広報について
市HPで公開します。（令和8年3月31日（火）予定）
- 3 今後の事業スケジュール

事業内容	R6	R7	R8	R9	R10～
野呂山の活用検証をするためのデータ収集	観光客動向等調査				
基本構想策定	基本構想策定 民間事業者ニーズ調査				
計画・設計			基本計画策定	実施計画（設計）策定	
段階的整備 STEP1・STEP2					STEP1 STEP2

この「野呂山再整備基本構想」は再整備のビジョンと方向性を示すものであり、令和8年度に策定予定の「野呂山再整備基本計画」において具体的な整備内容を示す予定です。

野呂山再整備基本構想



01 背景・目的について

02 野呂山山頂エリアの概要

- 2-1 地形状況
- 2-2 主な変遷
- 2-3 野呂山エリアの主な風景
- 2-4 敷地に係る法規制
- 2-5 エリア内の主な施設現況
- 2-6 施設の利用状況
- 2-7 呉市・野呂山の利用実態
- 2-8 地域コンテンツについて

03 野呂山検討協議会

04 エリア再整備の方針

- 4-1 エリアの活用方針・コンセプト
- 4-2 ターゲット層の設定
- 4-3 エリア再整備の方針

05 今後の事業展開



01

背景・目的について



1. 背景・目的について

背景

- 野呂山は、昭和25年に瀬戸内海国立公園に指定され、素晴らしい景色が堪能できる屈指のスポットです。
- 国立公園の集団施設地区に指定されていることから、公園利用施設を計画的に設置し、利用拠点としての活用が期待されます。
- 頂上には、国民宿舎やキャンプ場を始めとした施設が点在し、弘法寺などの歴史資源もあり、登山やキャンプ、自然散策などのアウトドアが楽しめるなど、多様なポテンシャルが存在しています。
- 一方で、各施設の老朽化に伴う魅力の低下及び旅行形態の変化や利用者ニーズの多様化が進んだことにより、エリアの持つポテンシャルを十分に生かしきれず、利用者は減少傾向にあり、かつてのにぎわいは見られなくなっています。

平成30年9月 環境省 自然環境局 国立公園課 『国立公園宿泊施設の在り方について』
 ・**集団から個への旅行形態の変化**
 ・**利用者ニーズの多様化**

令和3年3月 呉市 『呉市公共施設に関する個別施設計画』
 ・**筆づくり資料館 令和17年廃止**
 ・**その他4施設 令和11年集約化(民間活用)**

- 宿泊施設の事業形態の多様化
- ニーズへの柔軟な対応ができない

- 施設の老朽化に伴う魅力の低下

野呂山山頂エリアの持つポテンシャルを十分に生かしきれない現況

目的

県内外から多くの利用者が訪れていた、かつての野呂山のにぎわいを取り戻すため、野呂山山頂エリアの持つ多様なポテンシャルを活用した野呂山再整備基本構想を策定します。なお、基本構想は、野呂山に係る多岐にわたる関係者が、野呂山山頂エリアの未来に向けて意思共有できるものを目指します。

主な検討事項

- 観光施設の集約・再整備（新設・改修・廃止）の方針
- 園地も含めた野呂山山頂エリア全体の再整備の方針
- 民間活用による実現可能な事業（ハード・ソフト）の調査・検討



図 野呂山山頂エリア

出典：国土地理院地図に一部追記

02

野呂山山頂エリアの概要

2-1 地形状況

2-2 主な変遷

2-3 野呂山エリアの主な風景

2-4 敷地に係る法規制

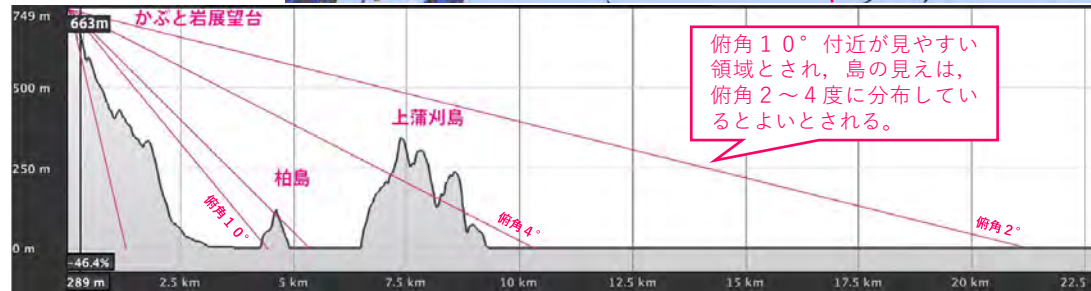
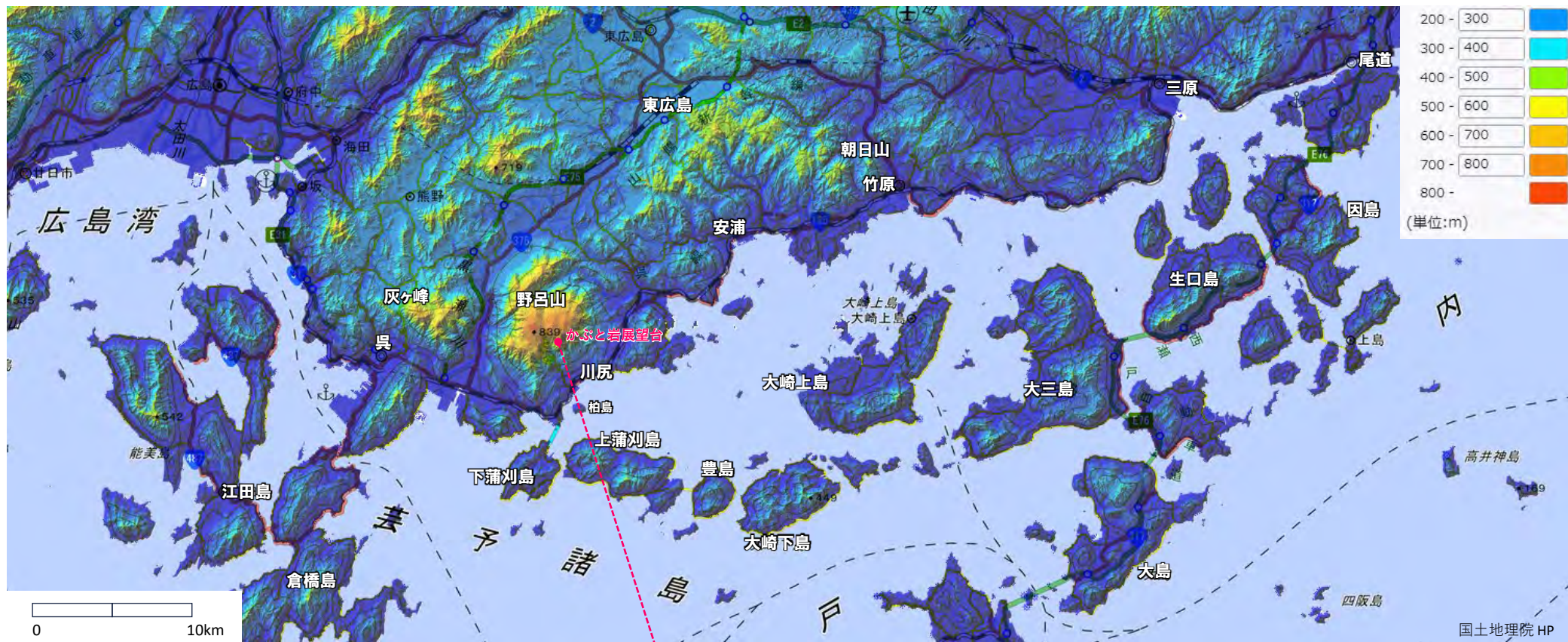
2-5 エリア内の主な施設現況

2-6 施設の利用状況

2-7 呉市・野呂山の利用実態

2-8 地域コンテンツについて

- 野呂山は、膳棚山（839.4m）と弘法寺山（788.8m）とを結ぶ東西2kmの高原の総称で、その標高は、瀬戸内海国立公園内では、六甲山に次ぐ高さであり、山頂からの眺望は、瀬戸内海の多島美など素晴らしい景色が堪能できる屈指のスポットです。
- その標高の高さから、平地部と比べ年間を通して気温は5度程度低く、春から秋にかけては過ごしやすい気候です。



俯角10°付近が見やすい領域とされ、島の見えは、俯角2~4度に分布しているとよいとされる。

かぶと岩展望台～上蒲刈島の断面イメージ



かぶと岩展望台からの眺望

2. 野呂山山頂エリアの概要

- 山頂付近の開拓碑には「この碑は昭和二十年八月 大東亜戦争の終結に当たり県内各地において二千七百戸の開拓者が五千四百町歩の荒地を開墾して戦後の食糧不足に貢献した業績を後世に伝える為に建立したものである」と刻まれています。
- その後、高度経済成長に伴い、野呂山においては、昭和40年代に国立公園の利用拠点となる国民宿舎やビジターセンター等の設置、民間による観光開発が行われましたが、オイルショックを経て民間は撤退しています。現在は、高原の立地特性等を生かした企業が参入しています。

昭和37年



- 終戦後、野呂山の開拓が行われ、昭和21年に71戸294人が入植する。昭和24年には十文字ロータリー近くに川尻小学校野呂分校も設置された。
- 昭和25年に瀬戸内海国立公園に指定される。
- 昭和45年には、開拓時の役割を終えた野呂分校が廃校となる。



野呂分校
(昭和34年・十文字ロータリー付近)

昭和56年



- 開拓兼観光用道路は、自動車の通行が困難なことから、川尻町と呉市、音戸町、安浦町が共同で、拡幅の陳情を行い、昭和43年に有料道路として「さざなみスカイライン」が開通する。
- 国立公園の利用拠点となる国民宿舎、ビジターセンター、レストハウス、キャンプ場等が設置(昭和43~44年)される。
- 同時期に、民間による開発も行われ、十文字ロータリーの北側に整備された「野呂牧場遊園」は昭和43年に開業した。
- また、その翌年には日本で5番目のサーキット場「野呂山スピードパーク」がオープンした。



野呂牧场遊園 (昭和43年ごろ)

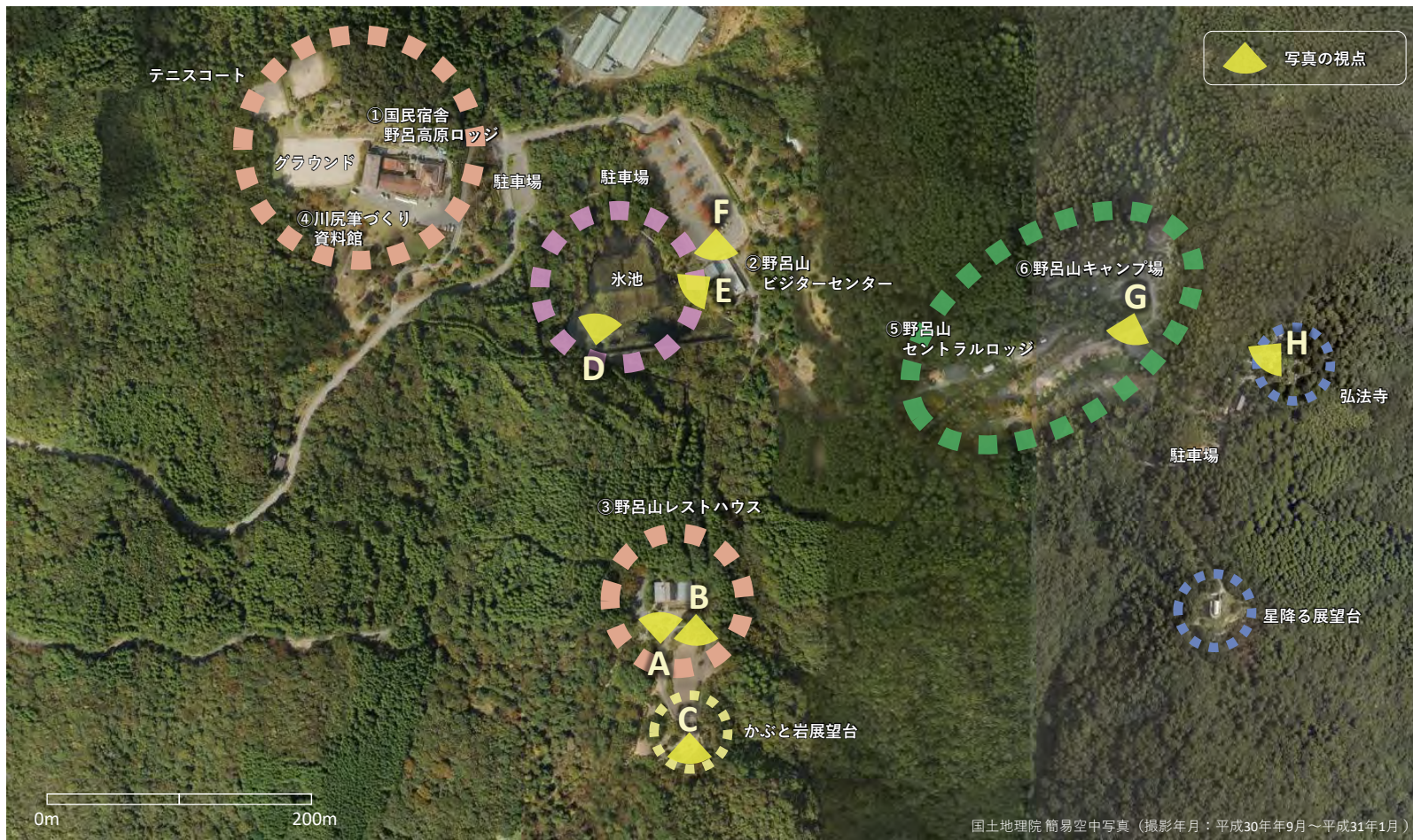
平成21年



- 騒音からの自然保護の声の高まりと、高度経済成長による好景気を一転させたオイルショックなどが背景となり、スピードパークは昭和49年に閉鎖され、同時期に野呂牧场遊園も閉園となる。
- 平成8年には野呂山を芸術交流、文化発信の地にするという構想の下、野呂山芸術村が開村
- 現在でもレストハウス開館日には、芸術村出身作家の作品を無料で鑑賞することができる。

※航空写真は、国土地理院HPより

※野呂山丸のみ読本(平成17年3月発行)に基づき作成



視点H 弘法寺と展望デッキ



視点G 樹林に囲まれたキャンプサイト



視点F 特徴的な形状のビジターセンター



視点A 瀬戸内海の眺望に向かうレストハウス



視点B レストハウスから園地・瀬戸内海を望む



視点C かぶと岩展望台より瀬戸内海を望む



視点D 園路から氷池を望む



視点E ビジターセンター前の園地・氷池

2. 野呂山山頂エリアの概要

- 自然公園法（昭和32年法律第161号）により、公園計画で保護と利用に関する計画を決定することが定められています。公園計画において、野呂高原ロッジ周辺は普通地域※1であり、それ以外の施設は第3種特別地域※2に立地しています。また、計画地全体が利用拠点として宿舎、野営場、園地などを総合的に整備する集団施設地区となっています。
- 森林法（昭和26年法律第249号）に基づき、一部が保安林指定により行為制限があります。立木の伐採などの行為については指定施業要件※3により農林水産大臣又は知事の許可が必要です。

※1 普通地域：国立公園の区域内で、特別地域に該当しない区域です。自然公園法による規制はあるものの、特別地域に比べて制限は緩やかとなっています。ただし、大規模な開発や自然景観を損なう行為は制限されます。

※3 指定施業要件：保安林がその指定目的を達成するために必要な森林の取扱方法を定めたものです。これには、伐採の方法、伐採の限度、伐採跡地への植栽の方法、期間及び樹種が含まれます。

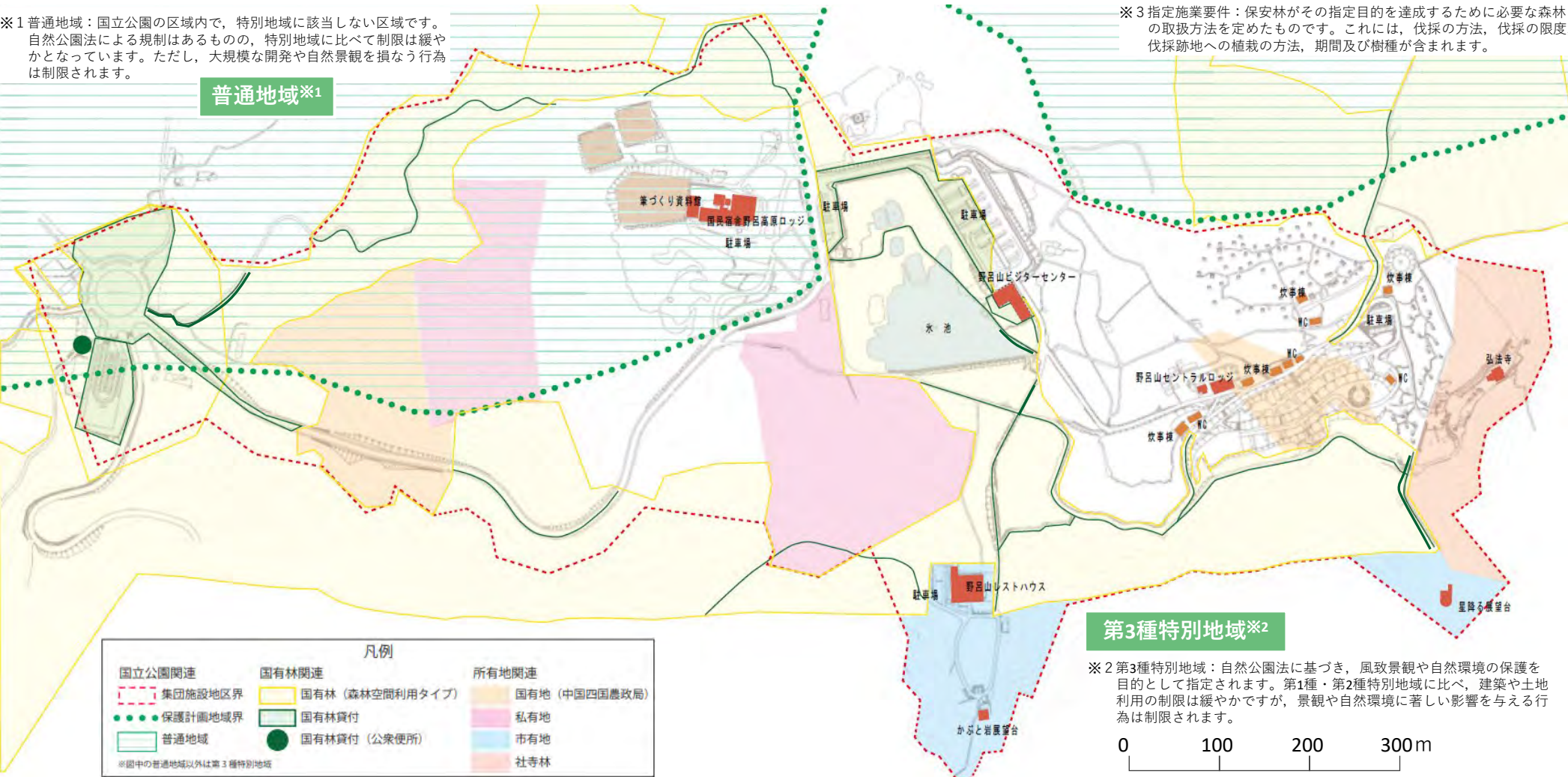


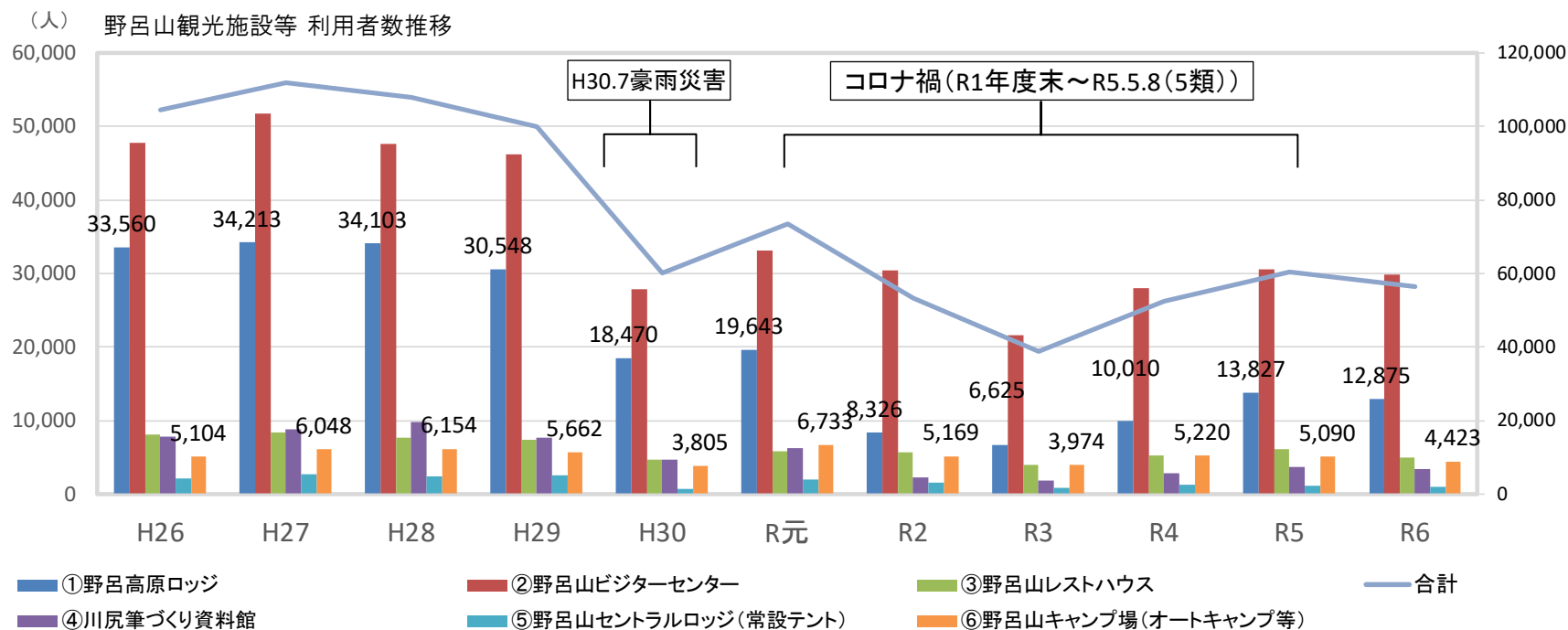
図 敷地に係る法規制及び所有関係

- エリア内の主な施設の現況は、次に示すとおりです。①～⑤の建物は呉市が所有している施設であり、宿泊施設、ビジターセンター、休憩施設等があります。その多くは、昭和43年から昭和44年に供用を開始しており、築57年から58年と老朽化が進んでいます。

施設名 (集団施設設計画の地割区)	① 野呂高原ロッジ (宿泊施設区)	② 野呂山ビジターセンター (公共施設区)	③ 野呂山レストハウス (休養園地区)	④ 川尻筆づくり資料館 (宿泊施設区)	⑤ 野呂山セントラルロッジ (野営施設区)	⑥ 野呂山キャンプ場 (野営施設区)
写真						
施設概要	◆ 県内の利用者が約7割であり、地元客やグラウンドゴルフ利用者など年間を通じて一定の利用がある。 ◆ 高齢者（65歳以上）の利用が約7割である。	◆ 野呂山の総合観光案内・交流施設として機能している。（野呂山の自然紹介の展示、囲炉裏スペース・陶芸教室、お土産販売コーナー） ◆ 野呂山の利用者が一番多く訪れる施設である。	◆ 野呂山の休憩・交流スペースと野呂山芸術村実行委員会主催による絵画や写真などを展示している施設である。 ◆ 川尻方面からの登山者のゴール地であり、また、かぶと岩展望台もあることから、休憩所として多くの利用がある。	◆ 1階の研修室は、企業研修や学校の勉強合宿で利用されている。2階は、筆づくりのために使用される道具や材料が展示されており、製造工程を学ぶことができる。 ◆ 平成16年8月、川尻筆が経済産業省の伝統工芸品に指定されている。	◆ キャンプ場の管理棟で、受付業務や食料品の販売のほか、キャンプ道具のレンタルをしている。	◆ 団体では、近隣の小学校の野外活動での利用が多いが、近年、宿泊は、ロッジを利用している。 ◆ キャンプ初心者や団体・家族は常設テントを利用、ソロ利用者は持込区画サイトを利用、グループはオートキャンプ場を利用する傾向がある。
主要施設	客室25室（和室21室、洋室4室）、宿泊定員：81名、広間、会議室、大浴場、食堂、厨房、事務室	1階 倉庫、機械室（437㎡） 2階 交流・情報スペース、多目的室、管理室（443㎡） 3階 事務室（94㎡）	1階 交流スペース、展示コーナー、情報コーナー、休憩室、トイレ 2階 研修室	1階 研修室3室、舞台・控室、便所、倉庫 2階 展示室、収蔵庫（2室）、休憩室	管理棟（受付、売店、休憩室、ホール）、倉庫	常設テント57区画（その内約20区画稼働）、オートキャンプ場21区画、持込区画サイト20区画（その内約13区画稼働）、シャワー棟、ファイヤーサークル2箇所、炊事棟4棟、公衆便所4棟、休憩所2棟
開館日	年中無休	年中無休（時間：午前9時～午後6時） （11時～2月の期間：～午後5時）	年末年始を除く土日祝及び夏休期間 （時間：午前9時～午後6時） （11月～2月の期間：～午後5時）	年中無休（開館時間 観覧室：9時～17時、研修室：～21時）	年中無休（開館時間 午前9時～午後6時）	年中無休
供用開始	S43.3	S44.4	S43.7	S60.3	S44.4	S43（オートキャンプ場H14）
R8.3末 築年数	58	57	58	41	57	58
構造	鉄筋コンクリート造2階建て （旧耐震基準で建設）	鉄筋コンクリート造3階建て （旧耐震基準で建設）	鉄筋コンクリート造2階建て （旧耐震基準で建設）	鉄骨造2階建て	鉄筋コンクリート造平屋建て （旧耐震基準で建設）	-
延べ面積	2,403㎡ （宿舍棟 2,292㎡、浴場棟 111㎡）	974㎡ （建築面積588㎡）	623㎡	762㎡	約230㎡	約3ha （敷地面積）
所有者	建物	呉市	呉市	呉市	呉市	広島県
	土地	広島県	広島県 国有林	呉市	広島県	広島県 国有地（農林水産省）
施設管理者	一般社団法人 野呂山観光開発公社					
根拠条例	国民宿舎野呂高原ロッジ設置条例	野呂山交流施設設置条例		呉市川尻筆づくり資料館条例	呉市野呂山セントラルロッジ条例	自然公園施設の設置及び管理に関する条例
計画・方針	個別施設設計画※	個別施設設計画※	個別施設設計画※	個別施設設計画※	個別施設設計画※	-
	集約化（R11）	集約化（R11）	集約化（R11）	廃止（R17）	集約化（R11）	-

※ 呉市公共施設に関する個別施設設計画（令和3年3月策定）

- 利用者数は、平成29年度までは年間約10万人前後（各施設合計）の利用がりましたが、平成30年7月豪雨災害とその後のコロナ禍の影響で、各施設の利用者数は激減しています。現在、コロナ禍は収束（5類に移行）し、利用者数は回復傾向にあるものの、十分な回復には至っていない状況です。



野呂山観光施設等 利用者数推移 (※⑥は県提供数値)

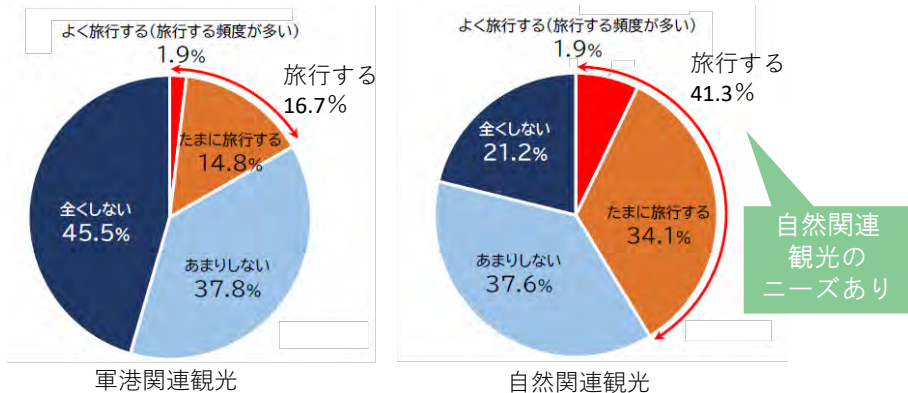
(単位: 人)

施設名	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
①野呂高原ロッジ	33,560	34,213	34,103	30,548	18,470	19,643	8,326	6,625	10,010	13,827	12,875
②野呂山ビジターセンター	47,821	51,796	47,628	46,174	27,822	33,118	30,448	21,657	27,937	30,617	29,849
③野呂山レストハウス	8,096	8,411	7,647	7,337	4,685	5,825	5,655	3,975	5,271	6,099	4,912
④川尻筆づくり資料館	7,821	8,792	9,829	7,727	4,676	6,206	2,220	1,857	2,869	3,685	3,420
⑤野呂山セントラルロッジ(常設テント)	2,194	2,629	2,425	2,582	640	1,959	1,553	826	1,270	1,175	982
⑥野呂山キャンプ場(オートキャンプ等)	5,104	6,048	6,154	5,662	3,805	6,733	5,169	3,974	5,220	5,090	4,423
合計	104,596	111,889	107,786	100,030	60,098	73,484	53,371	38,914	52,577	60,493	56,461

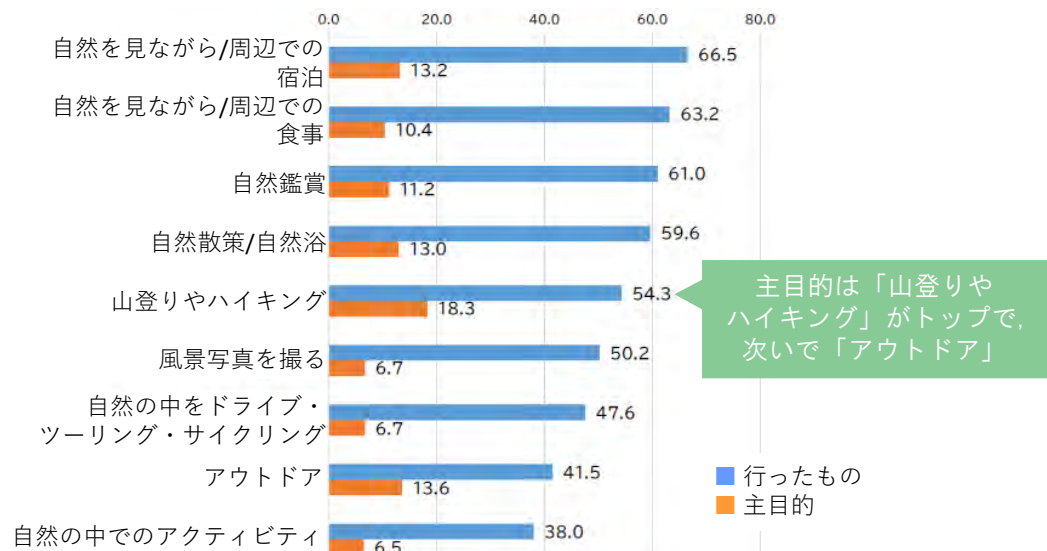
(1) 呉市の観光客動向等調査（左記調査のうち令和4年12月実施のインターネット調査）

- 自然関連観光のニーズは、軍港関連観光より高く、自然以外にも食事やお酒、歴史的遺跡・建築、宿泊施設等が主目的となっています。
- 自然関連観光では複数のコンテンツが総合的に評価される傾向があり、豊かな自然だけでは来訪の強い動機付けにならない可能性もあります。
- 「非日常感」やそこでしか見えない風景としての魅力、複数のコンテンツの組合せにより付加価値を創り出すことが求められています。

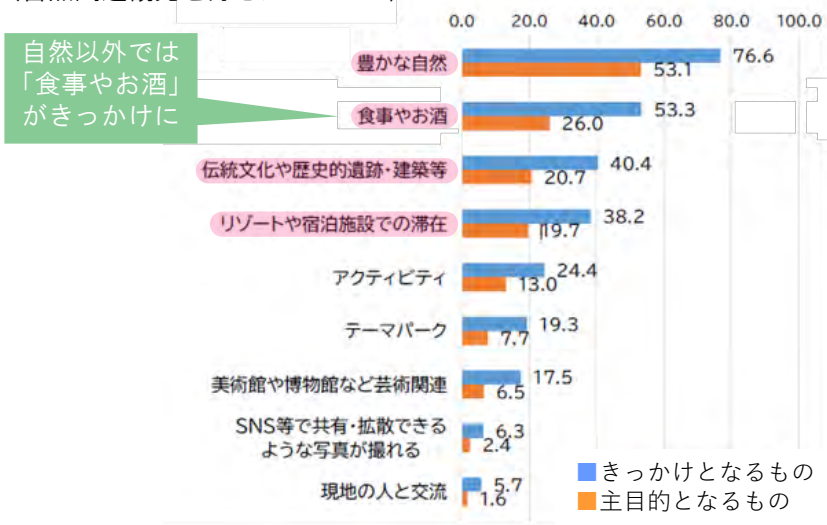
■どんな旅行をするか（全体 n=29,487）



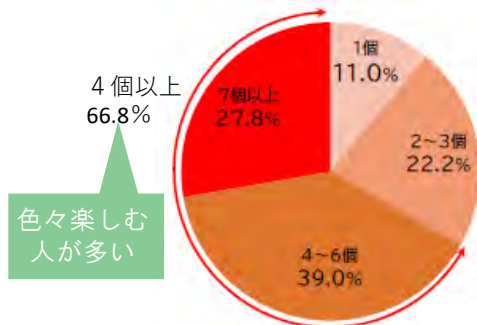
■自然関連観光の内容および主目的（自然関連観光を好む人 n=239）



■旅行先を決定する際にきっかけとなるもの、主目的となるもの（自然関連観光を好む人 n=508）



■自然観光で行った回数（自然関連観光を好む人 n=508）



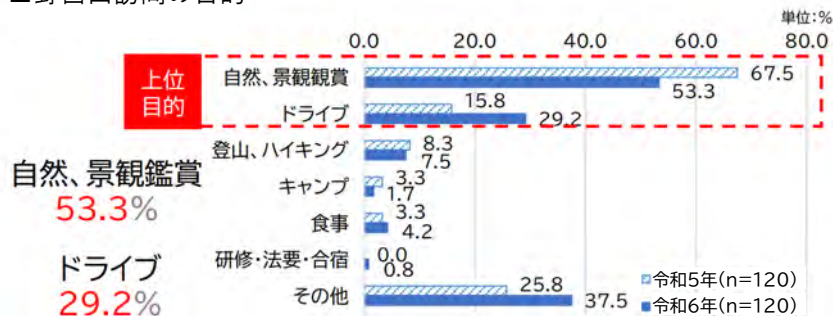
■自然関連観光の魅力（呉市自然観光経験者5名のインタビュー 令和5年1月実施）

- ポイント① 非日常感を求める
- ポイント② そこでしか見えない風景としての魅力
- ポイント③ 他の観光資源との連携

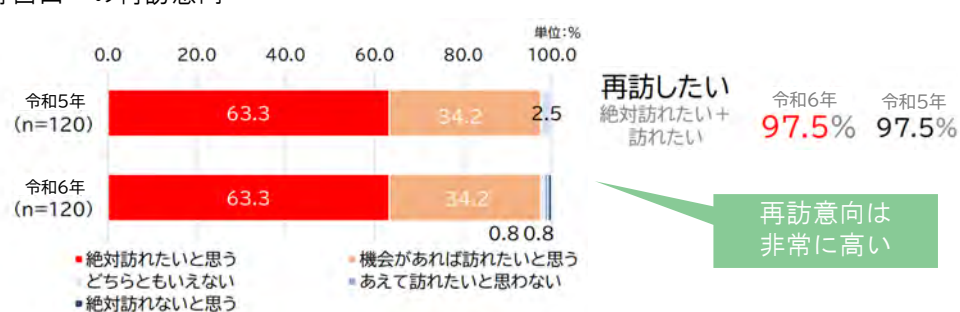
(2) 野呂山利用者の利用実態調査（令和5年8月・令和6年8月実施）

- 野呂山へは自然・景観鑑賞，ドライブ，登山・ハイキング，キャンプを目的として来訪する人が多い状況です。
- 訪問回数は5回以上が多く，リピーターの占める割合が9割を超えており，野呂山利用者の再訪意向はかなり高くなっています。一方で，初来訪者は2割以下です。
- 野呂山に来るきっかけとして，最も当てはまるものは，カフェ，展望浴場，景色の良いレストランの割合が高い状況です。

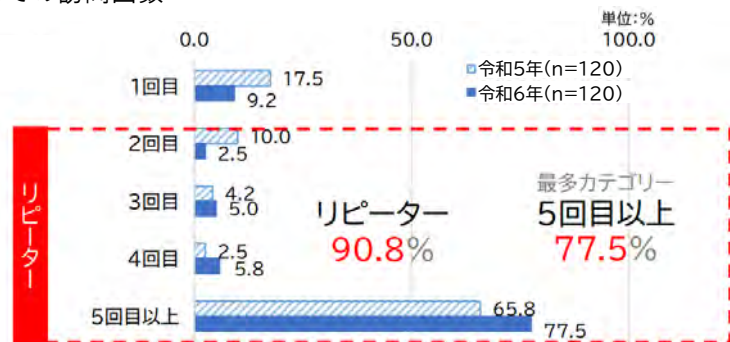
■野呂山訪問の目的



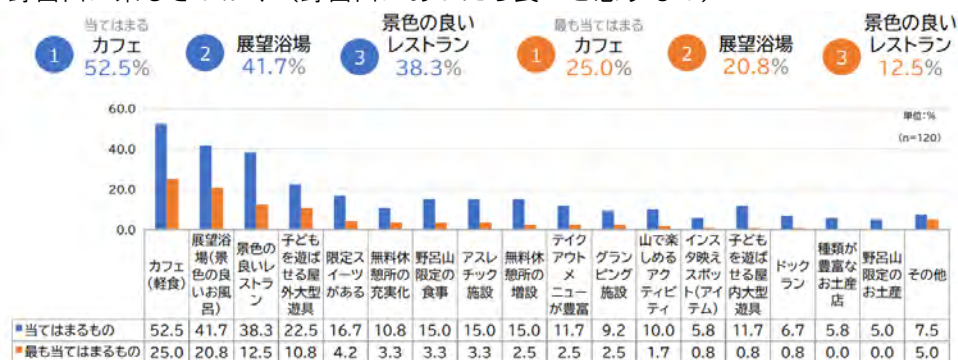
■野呂山への再訪意向



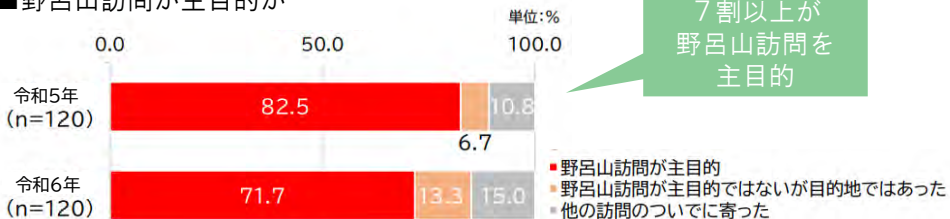
■これまでの訪問回数



■野呂山に来るきっかけ（野呂山にあったら良いと思うもの）



■野呂山訪問が主目的か



■野呂山で宿泊しても良いと思うサービス



2. 野呂山山頂エリアの概要

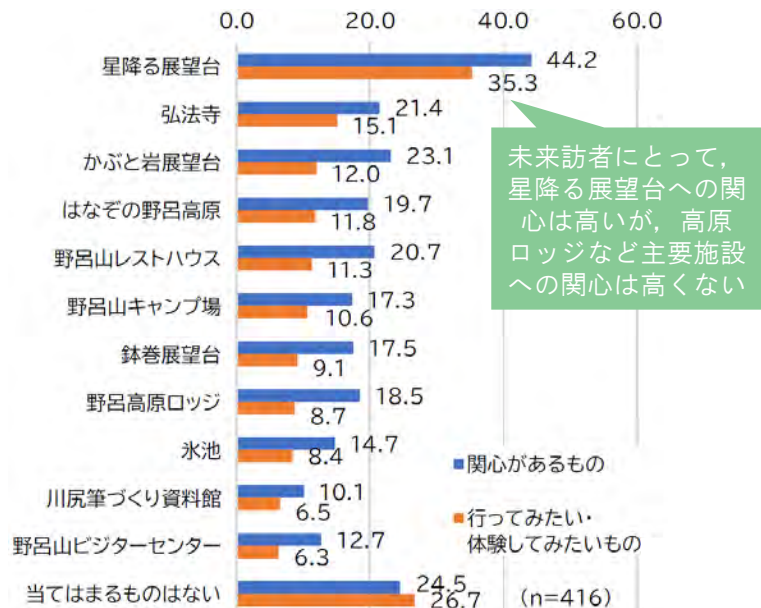
(3) 野呂山未来訪者を対象としたインターネット調査（令和4年12月・令和6年2月実施）

- インターネットの全国モニター調査では、野呂山の来訪経験は約5%、知っている人は約20%と、認知度は低い状況です。
- 野呂山未来訪者にとって、展望台や弘法寺への関心は高い一方で、高原ロッジやビジターセンター等の施設への関心は高くなく、コンテンツとしては、レストランやカフェ、露天風呂などに対するニーズは高いことが分かります。

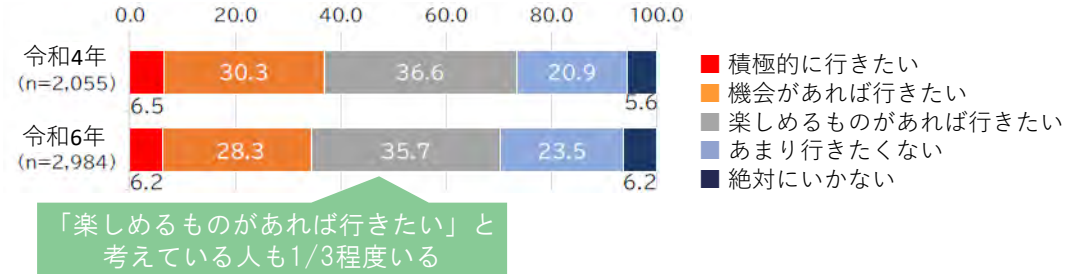
■野呂山の認知度（令和6年2月実施）



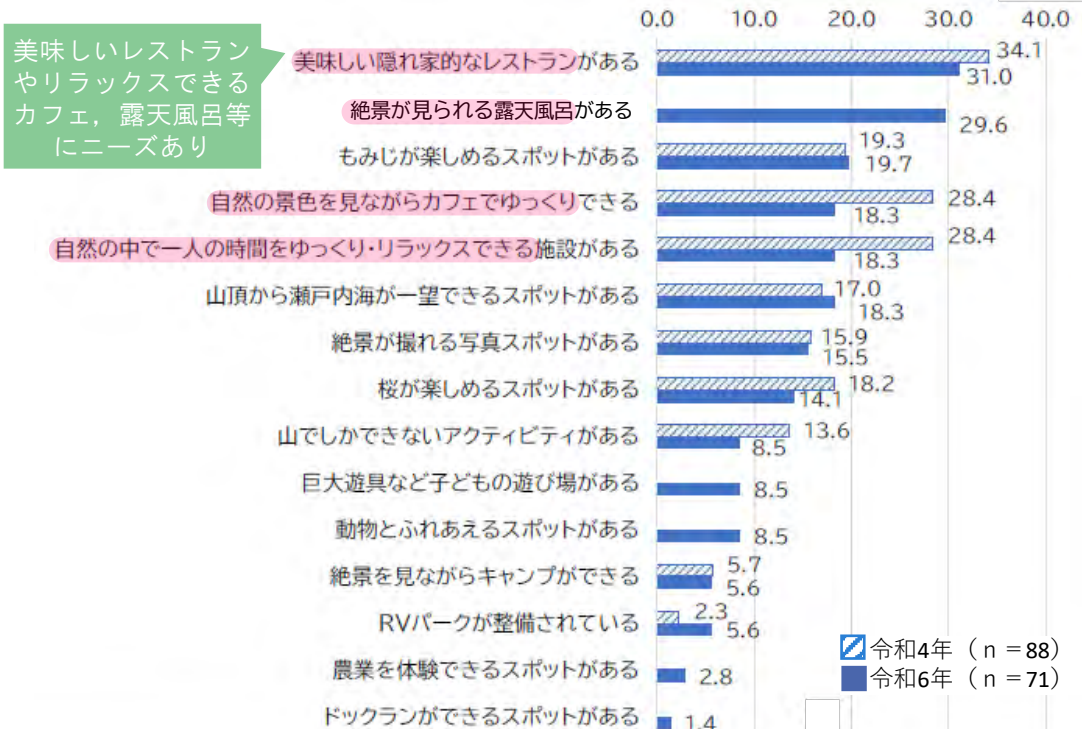
■施設への関心・訪問意向（令和6年2月実施）



■観光やレジャー先として「山」に行きたいと思うか（令和6年2月実施）



■どのようなコンテンツがあれば「山」を訪れるか（令和4年12月・令和6年2月実施）

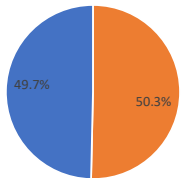


(4) 携帯GPSデータを用いた分析（データ取得期間 令和6年4月～12月）

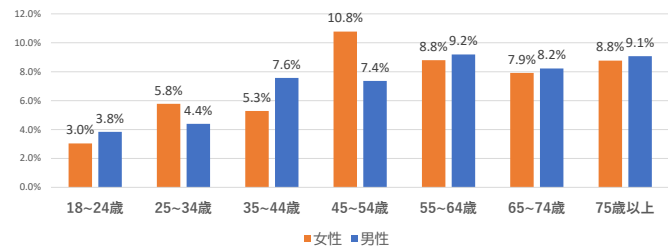
- 携帯GPSデータを用いた分析（データ取得期間 令和6年4月～12月）によると、野呂山関連施設来訪者は、40代以上の割合が高いことが分かります。
- 居住地別に見ると、広島県在住者が全体の8割以上を占め、そのうち、呉市、広島市の割合が高いことが分かります。
（大和ミュージアム来訪者は、県内在住者と県外在住者の割合が約半数ずつであり、関西圏、関東圏からの利用者も一定層いることが分かります。）

■野呂山関連施設来訪者

【性別】



【年齢】



【居住地】

地方別	割合
北海道	0.2%
東北	0.4%
関東	6.0%
中部	0.9%
近畿	3.5%
中国	87.2%
四国	0.6%
九州・沖縄	1.2%

県内利用者が8割以上

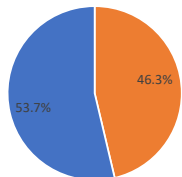
都道府県別（上位10）	割合	広島県内（上位10）	割合
広島県	84.6%	呉市	37.3%
東京都	3.3%	広島市	24.5%
神奈川県	1.7%	東広島市	8.6%
兵庫県	1.4%	尾道市	2.7%
岡山県	1.3%	福山市	1.9%
大阪府	1.3%	熊野町	1.7%
山口県	0.9%	廿日市市	1.5%
福岡県	0.8%	三原市	1.4%
千葉県	0.7%	府中町	1.2%
福島県	0.4%	海田町	0.8%

【勤務地】

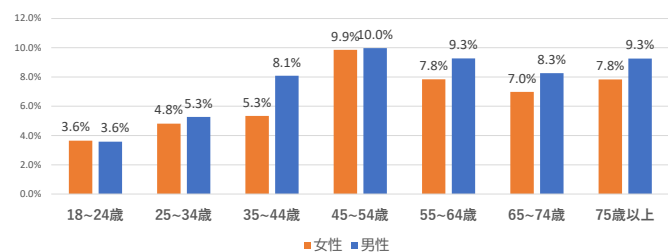
勤務地（上位10）	割合
呉市	38.9%
広島市	24.7%
東広島市	8.4%
尾道市	3.0%
福山市	1.8%
熊野町	1.4%
廿日市市	1.3%
三原市	1.3%
府中町	1.1%
海田町	0.8%

■大和ミュージアム来訪者（参考）

【性別】



【年齢】



【居住地】

地方別	割合
北海道	0.5%
東北	0.9%
関東	12.8%
中部	6.2%
関西	17.2%
中国	53.3%
四国	2.9%
九州・沖縄	6.1%

都道府県別（上位10）

都道府県	割合
広島県	48.2%
大阪府	6.8%
兵庫県	5.7%
東京都	4.8%
愛知県	3.4%
福岡県	3.4%
神奈川県	3.0%
埼玉県	2.3%
岡山県	2.1%
京都府	2.1%

広島県内（上位10）

広島県	割合
呉市	22.1%
広島市	15.9%
東広島市	2.3%
福山市	1.9%
江田島市	1.6%
廿日市市	1.1%
尾道市	0.5%
府中町	0.5%
海田町	0.5%
三原市	0.5%

【勤務地】

勤務地（上位10）	割合
呉市	22.7%
広島市	14.3%
東広島市	2.7%
福山市	1.8%
江田島市	1.1%
廿日市市	0.7%
府中町	0.7%
尾道市	0.6%
三原市	0.6%
海田町	0.6%

大和ミュージアムなど呉市中心部には、中国地方以外からも一定層来ている

野呂山を中心としたポテンシャルを再整理し、市内の魅力的なコンテンツと合わせ、活用できる事業メニューを検討します。

呉市観光振興計画では「私たち呉市民が豊かで幸せに暮らしつつげられるまちを目指して」をビジョンとして提示しています。行動指針（バリュー）として、「呉ならではのサービスや体験を提供し、たくさんの『呉ファン』を生み出そう！」を挙げています。野呂山エリア周辺を見渡すと、自然・歴史・食・滞在を核として、多種多様なコンテンツが存在しています。ファンを生み出すためには、これらの多くの魅力的なコンテンツを活用し、事業化に向けた市民意識の高まりが求められています。



図 ALL呉の魅力コンテンツ

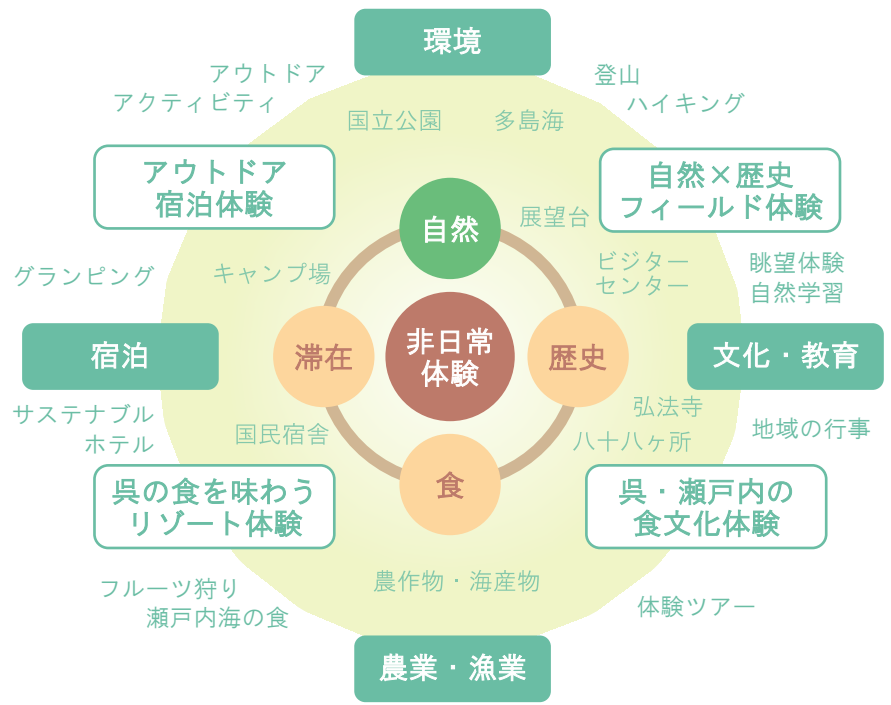


図 エリア周辺のポテンシャル



03

野呂山検討協議会



3. 野呂山検討協議会

(1) 野呂山検討協議会の開催状況

- 野呂山観光施設の集約化や今後予定している民間活用による野呂山全体の魅力発信に向けた「野呂山再整備基本構想」の策定について、野呂山関係機関・国（環境省・林野庁）・広島県・呉市・地元関係者で協議することを目的として、令和5年12月に「野呂山検討協議会」を設立しました。
- 野呂山検討協議会を計8回開催し、最終的に基本構想として呉市に提出することになりました。

■協議会の開催状況

	開催時期	協議事項	
令和5年度	第1回 R5.12.20	<ul style="list-style-type: none"> ● 野呂山検討協議会の設立について ● 現状と課題、野呂山への思い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 野呂山の現状について意見交換。各施設の老朽化や森林の生長による景観の悪化などの課題を共有
	第2回 R6.3.14	<ul style="list-style-type: none"> ● 野呂山の景観 ● 基本構想業務内容案の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 野呂山での現地確認。景観（木の伐採）・夏場の水不足など課題を整理 ● プロポーザルを行う基本構想策定業務の説明
令和6年度	第1回 R6.8.9	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想概要案の検討 ● 民間事業者のニーズ調査について 	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想の概要案について意見交換。エリアの整備方針として、3案を整理
	第2回 R6.10.11	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想の方針案の検討 ● 地域コンテンツの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各エリアの再整備案の説明と課題・概算事業費などの整理 ● 基本構想の方針案について意見交換。ターゲットの設定やゾーニング案、野呂山周辺の地域コンテンツについて協議
	第3回 R6.12.23	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者のニーズ調査結果 ● 引き続き民間事業者に提案していく案 	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査結果の報告 ● これまでの協議会で出た案とニーズ調査結果を踏まえ、2案にまとめた構想案を説明
令和7年度	第1回 R7.4.21	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者ニーズ継続調査及びヒアリング調査・モニターツアー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き民間事業者参画の可能性を探る調査を行う旨を説明
	第2回 R7.10.11	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者ニーズ継続調査の結果 ● 調査を踏まえた基本構想（素案）の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査結果の報告 ● モニターツアーでの事業者からの提案 ● 基本構想（素案）について、生物多様性への配慮や実現に向けての期待などの意見あり
	第3回 R8.1.23	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想（案）を市に提案 	



現地調査時の様子



大判図を用いたワークの様子



ワーク後の意見交換の様子



全体協議の様子

3. 野呂山検討協議会

(2) 事業者ニーズ調査

民間事業者へのアンケート調査

実施期間：令和6年10月28日～同年11月29日の1か月間実施

■ 回答概要

アンケート調査（55社へ依頼・一般募集）15社から回答

- ☑ 民間事業者が自ら資金調達を行い、宿泊・飲食・物販施設を建設して運営する『民設民営』を希望する回答はありませんでした。
- ☑ 自然環境や眺望は高く評価するものの、山頂へのアクセスや施設老朽化が課題となりました。

質問 「施設を導入するならどこが良いですか？」

(15社から回答)

高原ロッジ

宿泊施設 2社
飲食施設 3社
物販施設 3社

ビジターセンター

宿泊施設 0社
飲食施設 2社
物販施設 2社

かぶと岩展望台

宿泊施設 3社
飲食施設 1社
物販施設 0社

- 飲食・物販施設は条件により独立採算が可能という意見がありました。
- 宿泊施設は現状の高原ロッジの方向性を継続したいとの意見が複数ありました。

【飲食・物販のアイデア】

- 入れ替わりでビジターセンターへ出店
- キャンプ場附带施設で飲食のテイクアウト

民間事業者へのヒアリング調査

実施期間：令和6年12月中旬～令和7年1月下旬

■ 調査概要

アンケート調査で参加意向等があった事業者のうち、「開発・設計・建設・維持管理・運営・マネジメント」を行う事業者（計9社）に対し、対面又はWEBでヒアリングを実施しました。

■ 敷地のポテンシャル

- 自然環境の豊かさ、かぶと岩展望台から望む瀬戸内海の多島美、県内や近隣県からの集客性に対して高い評価がありました。
- 一方で、建物の老朽化、周辺の誘客施設・コンテンツの不足、自然公園法や森林法による制約等を懸念する意見がありました。

■ 宿泊施設再整備について（民設民営の可能性）

- 施設整備費・維持管理運営費の一部を公共で負担、学校の宿泊行事での利用収入を見込む等のスキーム検討が必要との意見がありました。
- 民設民営（独立採算）での宿泊施設の運営は困難との意見が複数ありました。また、民設民営での参加を希望する事業者は、直ちに参画を判断できる状況にないとの回答でした。

モニターツアー

■ 調査概要

実施期間：令和7年1月～同年9月

- 実際に現地を見ていただき、民間事業者の皆様との対話を通じて、実現性ある提案や様々なアイデアを頂くことを目的として、モニターツアーを実施しました。
- 計5社に参加いただき、事業者からの意見や利活用の提案を頂きました。



追加アンケート調査,追加ヒアリング調査

実施期間：令和7年7月22日～同年8月8日

■ 調査概要

野呂山における宿泊・飲食・物販施設等の利用拠点について、民設民営による事業の可能性をさらに深掘りすることを目的に、宿泊・飲食・物販施設の整備・運営の実績を有する事業者を対象に調査を実施しました。

■ アンケート回答概要

- アンケート調査（55社へ依頼・一般募集）に対して、6社から回答がありました。
- 民設民営による整備・運営に興味を示した事業者は計2社いましたが、公共の費用負担（改修や運営への補助など）を求める意見があり、民設民営による施設の新設・運営については、現時点での可能性は低いことが確認されました。

■ 追加ヒアリング回答概要 実施期間：令和9月上旬

- 上記調査において、本事業へ興味を示した事業者を対象にヒアリングを実施しました。
- 既存施設である野呂高原ロッジの改修を想定しているが、独立採算での整備・運営は難しいという回答でした。

04

エリア再整備の方針

4-1 エリアの活用方針・コンセプト

4-2 ターゲット層の設定

4-3 エリア再整備の方針

エリアの特徴・課題

野呂山頂エリアの特徴と課題を整理すると次のとおりです。

■：特徴 ■：課題

地形

- 野呂山山頂周辺の標高700～800m程度に位置し、比較的傾斜の緩い高原地形である。
- 平地部と比べ、年間を通して、気温は5度程度低く、春から秋にかけて過ごしやすい気候

変遷

- 昭和25年に瀬戸内海国立公園に指定される。
- 昭和43～44年に国立公園の利用拠点となる国民宿舎やビジターセンター等が整備される。

法規制状況

- 国立公園内の集団施設地区の指定を受けており、国立公園の計画を考慮した検討が必要
- 森林の多くは、保安林指定を受けており、また、計画地内の国有林は、森林空間利用タイプに位置付けられている。

風景

- 瀬戸内海の多島美を一望できる絶景がひろがる。
- 園地や氷池周辺の散策路からは、豊かな自然風景を享受でき、ビジターセンターなど、周囲の自然風景との馴染みのよい特徴的な施設群がある。

利用状況

- 平成30年7月豪雨災害、コロナ禍の影響で利用者は激減
- 現在、利用者数の回復に至っていない。
- 利用者の9割以上がリピーターで再訪意向も高い。市内や近隣自治体からの合宿利用は増加傾向

施設現況

- 計画地に施設が分散して立地
- 施設は、そのほとんどが築年数57年以上で、更新期を迎えており、施設老朽化に伴い、施設自体の魅力は低下

野呂山再整備基本構想の内容

活用方針 ①

子どもたちが自然とふれあい、身体的なアクティビティを体験することで、探求心を育む学びと成長の空間を創出



- 新しい人流の開拓として、子育て世代にアプローチ
- 子どもたちが野呂山の雄大な自然の中で声を出して走り回り、様々な体験をすることのできる環境を整備

活用方針 ②

STEP1とSTEP2の2段階に分けた整備(段階的整備)による野呂山への新たな人流の開拓と民間企業参画の可能性の追求



- STEP 1 では野呂高原ロッジエリア以外の各施設を先行して整備し、新しい人流とにぎわいを創出したのち、新生野呂山にふさわしい野呂高原ロッジエリアとして再整備を行う。
- STEP 1 で行う再整備により野呂山の観光地としての魅力を向上させ、民間事業者参画の可能性を高める。
- 最初に全ての計画を作るのではなく、段階的にステップを踏んでいくことで、時代と環境の変化に対応する。

STEP 1

- ビジターセンターの改修
- かぶと岩展望台（星降る展望台）の改修（レストハウスは廃止）
- キャンプサイトの改修（セントラルロッジは廃止）
- 野呂高原ロッジエリアのリフォーム

STEP 2

- 野呂高原ロッジエリアの再整備

野呂山頂エリアの特徴を踏まえて、エリア活用のターゲット層を設定

特徴

- ✓ 広島市・呉市・東広島市などの市街地から、車で1時間程度でアクセス可能
- ✓ 豊かな自然環境・歴史資源等を生かした自然環境学習や野外活動など、教育的・体験型資源が豊富
- ✓ 瀬戸内海国立公園に位置し、多島美を一望できる絶景という資源を有する
- ✓ 50km圏内に、呉・広島市街・宮島・竹原・しまなみ海道など、国際的にも注目を集める観光地が存在

メインターゲット

- ① **ファミリー層（広島市・呉市・東広島市など近隣都市圏）**
- 「気軽な日帰り自然体験」需要に合致
 - こどもと一緒に楽しめるキャンプ・ハイキング・天体観測など、教育的・体験型資源が豊富

サブターゲット

- ② **学校・団体利用（教育旅行、地域活動）**
- 瀬戸内海を背景にした自然環境学習、野外活動、弘法大師ゆかりの歴史が教育素材として有効
 - 冷涼な気候を生かして、春から秋季にかけて、高校生や大学生等のスポーツ合宿等に対応を拡大
- ③ **アクティブシニア層（50～70代、健康志向・登山愛好者）**
- 山頂まで車でアクセスできる一方で、複数の登山コースがあり、体力に応じて選べる。展望・自然観察・歴史散策など、アクティブ+ゆったり型観光の両立が可能
 - 平日利用の余地があり、観光消費の平準化につながる。





成長ターゲット

- ④ **瀬戸内観光の広域周遊客（国内外）**
- 国際観光地と連携しやすい立地であり、海だけでなく「山からの絶景」を加えることで、瀬戸内観光の多様化に寄与
 - 外国人観光客には「海と山を一望できるパノラマ体験」「日本的な四季の山景色」が強い魅力



各サイトの特徴を生かしたゾーニングの設定

方針① こどもが主役となる野呂山の魅力活用

ターゲット層	 <p>メインターゲット</p> <p>ファミリー層 (近隣都市圏) 「近隣都市圏の利用者層が主体」 キャンプ・グランピング、 野外アクティビティ、 体験型プログラム、自然学習</p>	 <p>サブターゲット</p> <p>学校・団体利用 (近隣都市圏) 「林間学校等の合宿利用増加」 教育旅行対応プログラム、自然学習・ 歴史文化体験、スポーツ施設、 宿泊施設</p>	 <p>成長ターゲット</p> <p>アクティブシニア層 「近隣都市圏の利用者層が主体」 登山道・展望スポット、 休憩施設の整備、 健康志向アクティビティ</p>	 <p>成長ターゲット</p> <p>瀬戸内観光の 広域周遊客 (国内外) 「利用少ない」 ビジターセンターでの情報発信、 展望デッキ、野外アクティビティ、 宿泊施設</p>
--------	--	--	--	--

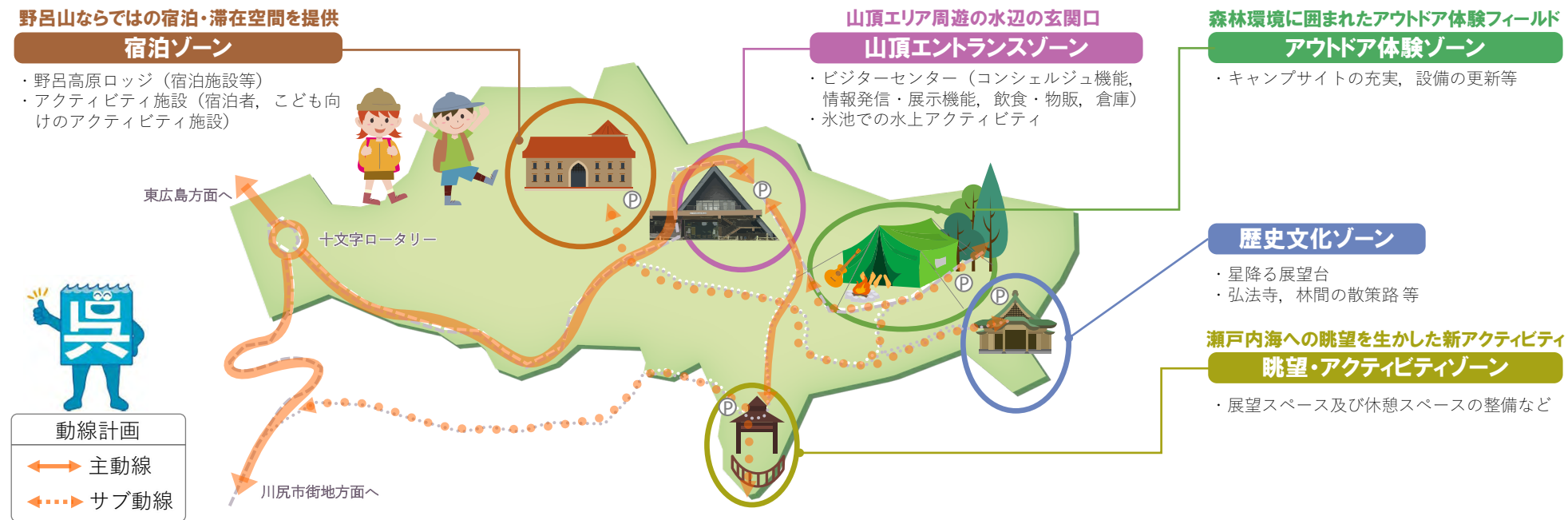
各サイトについて、ポテンシャルと課題を踏まえて、ターゲット層に合わせた活用の方向性を示すゾーンを設定しています。

	野呂高原ロッジサイト	ビジターセンターサイト	かぶと岩展望台サイト	キャンプサイト
ポテンシャル	<ul style="list-style-type: none"> 隣接するグラウンドを含め、エリア最大の平坦な敷地（約1ha）があり、大自然の中で思い出に残る様々な体験が可能となる滞在型観光の拠点 こどもたちが思い切り走り回り、多人数でのダイナミックなアクティビティやスポーツフィールドとしても利用可能なエリア 	<ul style="list-style-type: none"> 高原の豊かな自然環境が美しい水池周辺。水生生物の観察や水辺景観を生かした学び・遊び体験に最高のロケーション 山頂エリア最大の駐車場あり。遠足や林間学校など団体学習のアクセスに適し、こどもたちの「自然学習の玄関口」となる。 	<ul style="list-style-type: none"> とびしま海道の多島美を眼下に収める瀬戸内随一のパノラマ眺望があり、空と海の一体感を最も感じられる野呂山ならではの魅力が詰まったロケーション 夜間の星空観察等にも最適 	<ul style="list-style-type: none"> サイトを囲む豊かな森林環境があり、人気のオートキャンプサイトやキャンプファイヤー場がある。 家族や友人との交流や共同作業を通じ、チャレンジする力や生きる知恵を育む様々な体験が可能 デジタル環境から離れ自然を五感で感じ成長につなげる野外フィールド
課題	<ul style="list-style-type: none"> 既存施設の取扱い（老朽化） 眺望の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ビジターセンターが案内拠点として機能を十分に発揮できていない。 水辺景観の楽しみ方として周回する散策路しかない。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存施設の取扱い（老朽化） 眺望を生かした新しい魅力の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 既存施設の取扱い（老朽化） 水回り設備の老朽化 キャンプサイト（デッキ）の老朽化 樹林繁茂による快適性低下
	<p>宿泊・滞在ゾーン 遊びと学びの大舞台</p>	<p>山頂エントランスゾーン 水辺のアクティビティ基地</p>	<p>眺望・アクティビティゾーン 空/海/島に囲まれた絶景テラス</p>	<p>アウトドア体験ゾーン 自然の懐に飛び込む冒険と交流の森</p>

各ゾーニングの機能と動線設定

方針① こどもが主役となる野呂山の魅力活用

各サイトについて、ポテンシャルと課題を踏まえて、活用の方向性を示すゾーニングを設定しました。



野呂高原ロッジサイト	ビジターセンターサイト	かぶと岩展望台サイト	キャンプサイト
<p>宿泊・滞在ゾーン 「遊びと学びの大舞台」</p> <p>民間活力を最大限活用し、サステイナブルな宿泊施設を整備し、こどもの記憶に残る野呂山ならではの宿泊体験、ツアー等を提供するゾーン</p>	<p>山頂エントランスゾーン 「水辺のアクティビティ基地」</p> <p>山頂エリア周遊の玄関口として、野呂山や呉市等の情報・魅力発信、各種アクティビティの拠点となるゾーン</p>	<p>眺望・アクティビティゾーン 「空/海/島に囲まれた絶景テラス」</p> <p>瀬戸内への圧倒的な眺望を生かした滞在性の向上や新たなアクティビティの拠点となるゾーン</p>	<p>アウトドア体験ゾーン 「自然の懷に飛び込む冒険と交流の森」</p> <p>豊かな森林環境に囲まれ、キャンプ・キャンプファイヤーを始めとした様々な野外体験等でこどもの冒険心や交流を育むフィールドとなるゾーン</p>

段階的な再整備

方針② 段階的再整備による新たな人流の開拓

野呂山の再整備は、短期的には既存施設の改修・機能強化を図り、新しい体験価値を創出することで新規利用者を獲得し、中長期的には滞在型観光を可能にする宿泊機能を充実させる二段階方式で進めます。これにより、「日帰り型から滞在型へ」とシフトする観光拠点化の実現を目指します。

STEP 1：施設集約化＋野呂山ならではの魅力強化

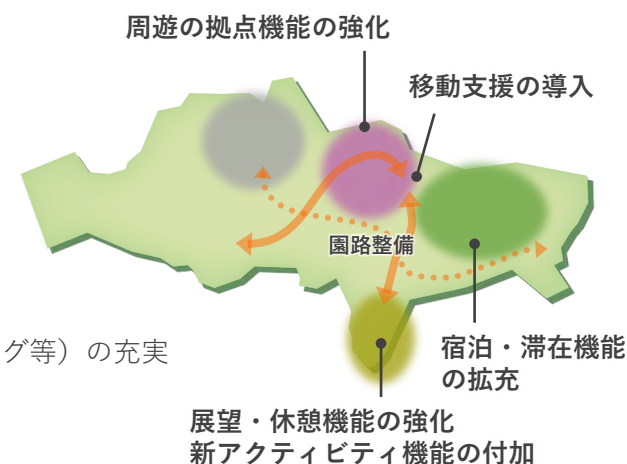
野呂高原ロッジ以外の既存施設の集約化・改修，野呂山ならではの新たなアクティビティ機能の付加等により，観光客を呼び込み，特に子育て世代への訴求を強化

施設内容

- 野呂高原ロッジサイト：現状維持（小規模改修），レクリエーション，研修機能の提供
- ビジターセンターサイト：周遊の拠点機能（案内・情報発信機能，飲食機能，受付機能等）の強化
- かぶと岩展望台サイト：レストハウス廃止，展望・休憩・アクティビティ機能の整備
- キャンプサイト：セントラルロッジ廃止，改修により宿泊・滞在機能（キャンプ・グランピング等）の充実

子育て世代が野呂山ならではの魅力を体感できる3サイトの強化

→ こどもたちが自然とふれあう新アクティビティ導入と魅力的な滞在体験を創出し，日帰り利用客をリピーターへと育成



STEP 2：野呂高原ロッジの滞在拠点機能強化＋施設間連携強化

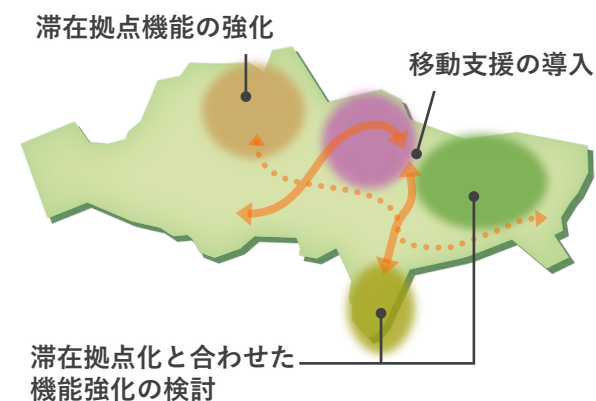
先行整備（STEP 1）でのエリア全体の魅力向上により，民間事業者の参入意欲を高め，滞在の核となる野呂高原ロッジの整備を行い，滞在型観光を促進


施設内容

- 野呂高原ロッジサイト：STEP 1の再整備で子育て世代が喜ぶ新しいにぎわいを創出し，新生野呂山にふさわしいロッジを整備
- ビジターセンター・かぶと岩展望台・キャンプサイト：STEP 1での強化の継続・拡張

高原ロッジの滞在機能とエリア全体のネットワークの強化

→ 滞在型観光の実現により，広域観光ルートの中核拠点としての役割を担う





05

今後の事業展開



5. 今後の事業展開

事業スケジュール

- 令和8年度以降は、先行着手するSTEP 1の各ゾーンに対する官民連携手法の具体化、事業者公募・選定、設計・建設と、順次、段階的整備を図り、各ゾーンごとに早期の事業開始を目指します。

事業内容	R6	R7	R8	R9	R10～
野呂山の活用検証をするためのデータ収集		観光客動向等調査			
基本構想策定		基本構想策定 民間事業者ニーズ調査			
計画・設計			基本計画策定	実施計画（設計）策定	
段階的整備 STEP 1・STEP 2					STEP 1 STEP 2

【基本計画】

再整備工事を進める上で根幹となる計画

再整備における具体的な課題や条件を整理するなど場所や機能、概算工事費など具体的な案を示すもの。

【実施計画（設計）】

基本計画に基づき、工事施工を考慮した上で、デザインと技術面の両面にわたる詳細な設計書であり、工事施工に向けての工事費の具体的な積算を行うもの。

- 基本構想は再整備のビジョンと方向性を示すものであり、具体的な整備内容については令和8年度に策定予定の野呂山再整備基本計画の中で検討します。

呉市 観光振興課 令和8年3月

